

皮膚の感染症「プールに入ってもいいの？」

夏本番になってきました。プールが楽しみな季節ですが、夏はブツブツ（皮膚感染症）の季節でもあります。今回は皮膚の感染症、主にプールには入れるかはいれないかについてご説明します。

① 伝染性膿痂疹（とびひ）

皮膚に存在する化膿菌により発症する病気です。かきむしったところの浸出液、水疱内容などで次々にうつります。ただ学校のプールには一定濃度の塩素が含まれており、とびひをおこす化膿菌はこの塩素濃度の中では死滅します。従ってプールの水を介してはうつりません。しかし、化膿菌の感染力は強く、患部が他の人の皮膚に触れるだけでも感染します。従ってとびひの場合、完全に治癒するまで（医師が許可を出すまで）プールの使用は禁止すべきでしょう。

【結論】×

② 伝染性軟属腫（みずいぼ）

幼稚園、保育園のプールでは一番問題になるでしょうか。水いぼのウイルスが皮膚に浸入増殖することによりいぼが出来ます。いぼがつぶれて内容物がつくと感染の原因になります。しかし、感染力はさほど強くなく、通常のプールでの活動で病変部に皮膚が触れたとしても感染が起こる可能性は低いと考えられます。また、プールの水を介して感染することもなく、海外でも特にプールを禁止している国はありません。タオルなどの使い回しを避ければプールはOKです。

【結論】○

③ 頭シラミ

たまに保育園で流行します。寝具を一緒にすると感染しますので、お母様にもよくうつります。この頃薬の効かない耐性シラミが増加して問題になってます。頭シラミは髪の毛をしっかりと把持しており、水の中に浸っても離れることはありません。従ってプールの中でも頭から離れませんのでプールを介して人に伝染することはありません。治療を開始していれば、プールは問題ないと考えられます。水いぼと同じようにタオル、水泳帽の使い回しは避けましょう。

【結論】○

以上、皮膚感染症、プールに関するご説明でした。かかりつけの先生ともご相談されて楽しい夏を過ごしましょう。